

# 音楽科の研究

伊藤 純子



## 🔍 キーワード

聴きわかる耳 音楽語らい 選択・決定

## 🎯 主張

音楽科では、「歌詞を語る」という歌唱に対する新たな認識を形成し、自分の表したい音楽を創りあげていく姿を目指す。「歌詞を語る」とは、「歌詞の世界に浸って、曲趣と関係づけながら感受した情感を歌う」ことである。

表現意欲に支えられた、より主体的な追求を通して、その具現に迫りたい。そのために着目したのは、「聴きわかる耳」と「音楽語らい」である。

子どもが聴きわかる耳を働かせ、音楽語らいをしながら追求し、表したい音楽表現を創りあげていく姿を期待した。

# I 「歌を語る」という歌唱に対する新たな認識を形成し、 自分の表したい表現を創りあげる音楽科

## 1. 音楽科で求める子ども

本研究における音楽科第3年次研究では、「歌を語る」子どもの姿を目指す。「歌を語る」とは、「歌詞の世界に浸って、曲趣と関係づけながら感受した情感を歌う」ことである。

感受した情感と表現技法とをかかわらせて表現づくりをすることで、子どもの音楽的な感受・工夫が表現技能の向上につながる成果がみられてきている。一方、子どもが思い描いた表現に高めるには、教師の強い支援が必要で、指導性が強くなりがちだった。より主体的な追求を通して、感受した情感を深めながら新たな表現技能を習得し、思い描いたように表現する楽しさ・感動を味わう姿を目指したい。

そのために着目したのが、「聴きわかる耳」と「音楽語らい」である。「聴きわかる耳」とは、表したい歌詞に照らして自分の歌声や歌い方を自己評価する力である。「音楽語らい」とは、想像する歌詞のニュアンスを表そうとして、自分に問うたり仲間と相互評価したりする表現活動である。この相互の関連を図りながら追求することを通して、想像する歌詞にふさわしい歌声や歌い方、それを具現するための身体のコントロールを選択・決定し、歌詞の世界に浸って、表したい表現を歌いあげていくことができる。

聴きわかる耳を働かせ、音楽語らいをしながら表現を創りあげていく姿が、『「歌を語る」という歌唱に対する新たな認識を形成し、自分の表したい音楽表現を創りあげる』音楽科で求める子どもの姿である。その姿をカリキュラム改善と授業改善によって求めていく。

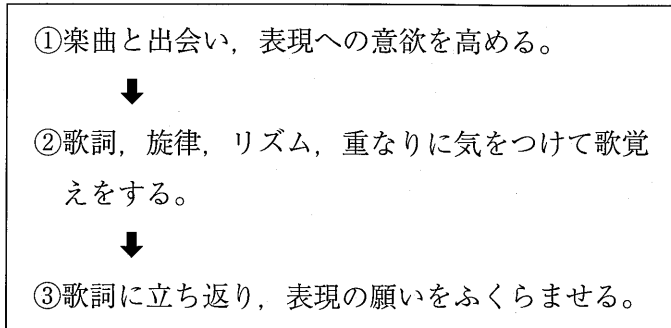
## 2. カリキュラム改善の視点

- 歌唱表現領域に重点をかけた小中連携カリキュラムを組む。感受した情感と表現技法とをかかわらせて、表現を練りあげていくことを通して、子どもが、系統的段階的に音楽的な感受・工夫、表現の技能の習得を図ることができるように重点単元を位置づける。
- 小学校では「歌唱プラン」、中学校では「表現プラン」を作成して、自分の表現づくりをする。自分の表したい表現づくりの計画、見通し、修正をしていくための手がかりとして「歌唱プラン」「表現プラン」を活用し、学び方の接続を図る。

### 3. 授業改善の方策

音楽科における学習過程を以下のように整理し、感性、科学的な感性、科学的なものの見方・考え方の働きを以下のように位置づける。

#### <第1過程 表現づくりの意欲を高める>

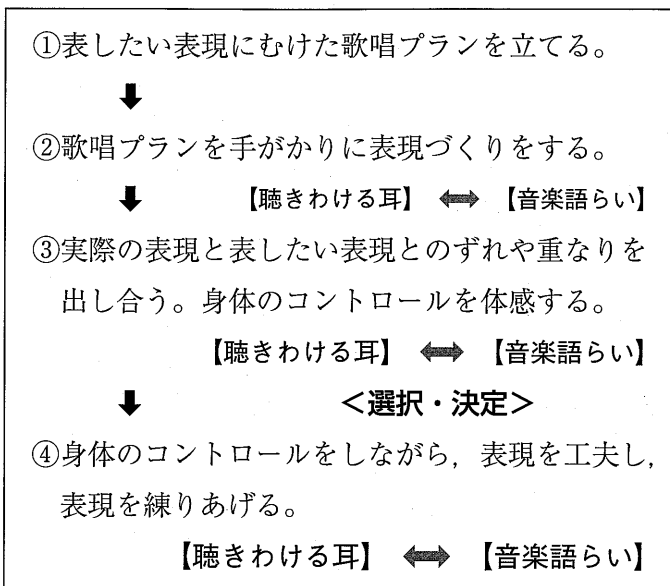


聴きわける耳をはぐ  
くみ動かせる視点

感性  
「楽曲のよさをとら  
えて歌詞や曲趣に  
共感する力」

音程やリズム、楽  
譜や範唱との比較  
検討

#### <第2過程 表したい表現を創りあげる>



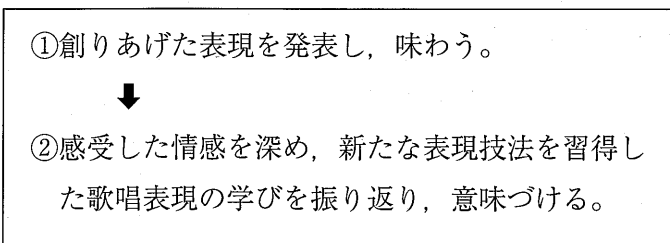
科学的な感性  
「表したい歌詞・  
歌声のイメージを  
求め、身体のコン  
トロールの仕方  
を選択する力」

表したい表現に照  
らした、身体のコ  
ントロールの違い  
による歌声、歌い  
方、響きの比較検  
討

科学的なものの  
見方・考え方  
「感受した情感と  
表現技法を関係づ  
け、歌声を聴きわ  
ける力」

表したい表現と実  
際の表現との比較  
検討

#### <第3過程 創りあげた表現を味わい、意味づける>



感受した情感と創  
りあげた表現との  
比較検討

### 4. 評価の方法

- 聴きわける耳の働かせ方の観察（歌い直している姿の実際、振り返りカードの記述）
- 音楽語らいの観察（一人・ペア・グループ追求の観察、振り返りカードの記述）
- 表現発表の変容、様相の観察（プランした表現との比較、過程ごとの発表の変容）

## II 実践

第4学年

### 重なる響きで空に虹をかけよう ～教材曲「歌のにじ」～

#### 1. 歌声で想像した虹をかけようと、聴きわける耳を働かせ、

音楽語らいをしながら、表現を練りあげていく学び

本単元では、より主体的に自分の表したい表現を創りあげていく姿を求め、教材曲に楽曲「歌のにじ」を取り上げる。希望に満ちた歌詞からなり、上学年に進級し、新たな学級や仲間との生活に期待をふくらませている子どもたちが、自分の思いを重ねて想像することができる内容である。曲はリズムカルで動きの多い主旋律がついている。また、副旋律はなめらかで、主旋律を効果的に飾っている。それぞれの旋律の変化が明確で、初めて重なる表現に取り組む子どもたちにとって、歌詞を生かして表現を創りあげるのに、適した教材曲である。

子どもたちは仲間と一つの作品の表現を創りあげる過程で、表現方法や表現技法を選択・決定し、感受した情感をふくらませながら、歌詞が伝わる心地よい響きを求めていく。聴きわける耳を働かせ、音楽語らいをしながら主体的に表現を練り上げていく姿が期待できる。

#### 2. 単元の構想

##### (1) 単元の目標

楽曲「歌のにじ」の歌詞や曲の特徴をとらえて、仲間と表したい表現を構想し歌い直していく中で、強弱、響かせ方、音量のバランスを工夫して、心地よい響きになるように歌い合わせしていくと歌詞が伝わる表現になることに気づき、ふしを重ねて歌唱表現をつくることができる。

##### (2) 追求の構想 (8時間)

###### 1次 気持ちよく重ねて歌おう (5時間)

◎主旋律と副旋律を気持ちよく合わせて歌おう。

<ふし合わせ発表会>

###### 2次 歌詞が伝わる重なる響きをつくろう (2時間)

◎表したい歌詞が伝わるように、強弱、響かせ方、音量のバランスを工夫して、自分たちの表現をつくろう。

<歌唱プラン→表現づくり>

###### 3次 互いの表現を聴き合い、学習を振り返ろう (1時間)

◎気持ちよく響き合わせ、歌詞が伝わるように工夫した表現を発表しよう。

<ほくたちの・私たちの「歌のにじ」発表会>

### 3. 授業の実際

(1) 柔らかいふくらませた歌声で、はっきりと見える虹をかけた。

(表現づくりの意欲を高める第1の過程)

前学年で「歌詞」を大切に  
追求を進めてきている子どもたち。

楽曲「歌のにじ」と出会い、歌  
詞の情景や気持ちを想像し、感じ  
とったことを歌詞カードに書く活  
動から学習をスタートした。

子どもたちは、主旋律と副旋律  
を気持ちよく重ねて、歌詞が伝わ  
るように表現していくことを願い、  
グループ表現づくりの活動に取り  
組んだ。

曲全体をとらえて楽譜通りにし  
ようとする麻央さんは、楽譜に音  
符ののばす長さを書き込み、拍を  
とりながら丁寧に歌う。歌を覚え  
た最初の発表を通して、次のよう  
に振り返った。

練習の時ははやくなっ  
たけど、発表の時はちゃんと  
できて、にじをかけられま  
した。

歌詞カード

思ったよりもなめらかな  
がしが本当のよつにさかこんできた  
ひこいてる。

名曲

歌声 高く ひびけ 空まで とどけ  
まぶしい春の光 うはて広がれ  
ぼくたちの歌声で 空ににじをかけよう  
希望の色にそめて どこまでも

流れる雲も歌う 声を合わせて  
ぼくたちの歌声で 空ににじをかけよう

希望の色にそめて どこまでも  
あした

あしたのいるにそめて つまでも

ぼくたちの歌声で「空ににじをかけよう」というところはきぼうをちゃんと書いていけるかなーと思いました。

麻央さんの歌詞カード

歌のにじ  
J-100-108

うたごえたかくひびけ そらまでとどけ  
まぶしいはるのひかり 引ひらぐれ  
ながれるくももうたう こえあわせて  
ぼくたちのうたごえてそらににじをかけよう  
ぼくたちのうたごえてそらににじをかけよう  
希望のいるにそめて どこまでも  
あしたのいるにそめて つまでも

ふし合わせに活用した麻央さんの楽譜

拍の流れにのってふしを合わせられたことで表現ができたことと満足している麻央さん。リズムや旋律、音程などの楽譜の内容を大切にしているよさを生かし、より深く歌詞を感じ取って曲想表現への願いをもち、歌詞を大切に自分の表現を追求して行ってほしいと願った。

そこでまず、想像した歌詞の情景や作詞者の気持ちへの立ち返りを促した。麻央さんは、歌を口ずさみながら、楽譜をゆっくりと目で追う。そして次のように記述した。

もっとはっきりと見える虹がかかるように歌い方を工夫したい。そのために、『ぼく』を弱くして『かけよう』をやさしくふくらませたい。歌とリコーダーのバランスもよくしたい。

感性「楽曲のよさをとらえて歌詞や曲趣に共感する力」を働かせて、表現の願いをもち、表現づくりへの意欲を高めてきた、麻央さんの姿である。

(2) おなかを使っても表したい表現にならないな。どうするとできるのかな。

(表したい表現を練り上げる第2の過程①)

新たな願いをもち始めている子どもたちに、自分たちの表現づくりに向けた「歌唱プラン」を立て、歌い試す活動を組織した。



歌唱プランを書く麻央さん

麻央さんの歌唱プラン

麻央さんは、『かけよう』をやさしくふくらませる歌い方にしようという願いをもって、くり返し歌う。思うように高い音がでない理香さんに、「おなかを使うといいよ。」とアドバイスをする麻央さん。麻央さん自身もおなかを意識して歌っているが、歌い方の変化はみられない。「自分の表したい歌い方ができてきたかな？」の問いかけに、首を傾げる麻央さん。おなかを使うよさはわかっているが、表したい歌い方や響きになるおなかの使い方についてはどうしたらよいかわからない。表したい表現と実際のとのずれを感じてきている姿である。

学級の子どもたちも「空の端から端までかかる虹をかけたいけど、『かけよう』の息が続かない。」「盛り上げたいのに、『かけよう』がかすれて弱くなる。」「堂々とした虹がかかるようにする『よう』の高いミがでない。もっと高く響かせたい。」等、表したい表現とのずれを感じている。子どもたちの表現の願いは『空に虹をかけよう』の歌声や歌い方に絞られてきた。

(3) 想像した虹に合うように、ブレスや息の使い方を工夫するとよさそうだ。

(表したい表現を練り上げる第2の過程②)

そこで、子どもたちにどのように身体のコントロールをしたら表したい表現に近づくかを問うた。仲間の「息を大きく吸うのもいいけど、深くブレスをすることが次につながっていく。」の発言に、麻央さんは大きくうなずく。口ずさみ、目をつむって息を吸う真似をする。子どもたちに自分の願う表現を具現する身体のコントロールの仕方を見出してほしいと願い、身体のコントロール（呼気の支え、口形、響かせる方向）による歌声や響きの違いを体感する活動を組織した。「深くといっても人によってちがうかもしれない。表したい表現に照らして、試してみませんか。」の問いかけに、麻央さんは「はい」とはっきり答えた。

1回目、深く息を吸って歌うよう促す。思い切って出す。深く吸った息をストレートに出す声に、麻央さんは顔をしかめ「怒鳴っているみたい」とつぶやく。2回目深く吸った息をためて出し方を調節するよう促す。上半身の力を抜いて歌うが、加減を気にして芯のある歌声にはならない。「ふくらます」歌声のイメージが具体的につかめないのである。3回目は、具

体的なイメージをもつ手がかりになるよう教師が「ふくらませる」歌い方を示範する。麻央さんは、歌う真似をしながら聴く。「こういうふうに大きくしたい？」の問いかけに大きくうなずく。イメージした「ふくらませる」と重なり、求める具体的な歌声や歌い方が見えてきた状況である。

4回目、教師の示範から取り入れたいことを試し歌うよう促す。『ぼく』『そら』の所でぐっと目をあける。『虹をかけよう』の『よう』でさらに目をあける。目をあけ、深い呼気に支えられた息を強く押し上げることで、頭声的な響きとなる。

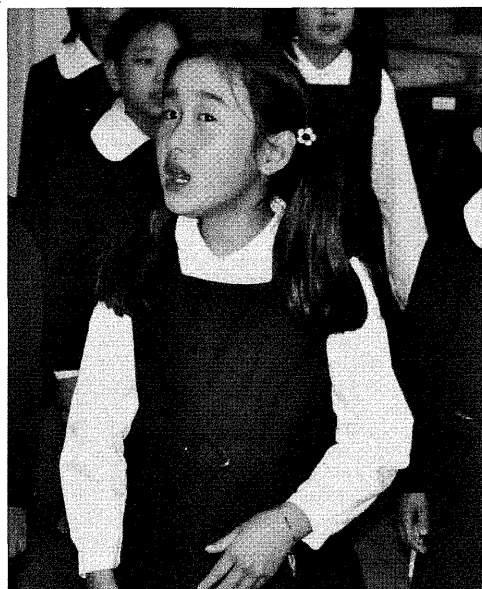
5回目、麻央さんは『そ』で大きく吸ったら『そ』が大きい声になって、『かけよう』の『よう』より大きくなった。」と不満をつぶやく。これは、特に4回目の歌声や歌い方と比較し、聴きわける耳を働かせて、はっきりとした虹がかかる『かけよう』の響きになっているかを自分に問う音楽語らいをしながら歌い試している姿である。

6回目は、『で』でそっと置くように歌い、『よう』を上げるように歌う。大きく納得したうなずきをする。呼気の支えができ、表したい表現になる息の出し方のコントロールの仕方をつかんだ瞬間である。願う表現に照らし、歌う度に首を傾げたりつぶやいたりうなずいたりして、また歌い直す麻央さん。科学的な感性「表したい歌詞・歌声のイメージを求め、身体のコントロールの仕方を選択する力」を働かせ、歌声や歌い方を選択・決定して、表したい表現を具現する身体のコントロールの仕方を見出してきた姿である。

(4) 自分の歌声を聴きわけながら練習したら、表したい歌声になって、虹もかかってきたよ。



イメージと違うことに不満をもつ麻央さん



自分に問いながら歌う麻央さん



見通しをもち、にっこりする麻央さん

(表したい表現を練り上げる第2の過程③)

歌詞から想像したことが伝わるように、選択・決定した身体のコントロールの仕方を生かしながら表現をつくる活動を組織した。麻央さんは歌い試す。目や口の開きが小さい。すぐに『受けて広がれ〜』から歌い直す。口が大きく開き、『よう』でさらに大きく開いて歌う。にっこ

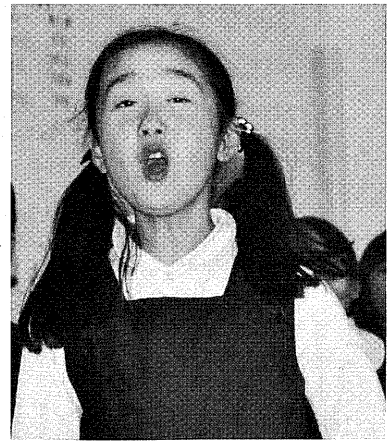


りとする。次の歌詞，次の身体のコントロールの見直しをもって歌い、『よう』でさらに口を開け，軟口蓋を開くことで，共鳴する響きになってきた。さらに，自信をもって歌い直す。口だけでなく，目の開きによる表情がつき，やわらかくて深い抑揚のある表現になった。これが，科学的なものの見方・考え方「感受した情感と表現技法を関係づけ，歌声を聴きわける力」を働かせて表現を練りあげている姿である。

学習のまとめでは，以下のように記述した。

私は，はじめはただ大きな声で歌おうとしたけど，「ふくらませる」ことと，そのために目と口を大きく開けて大きさにするように練習しました。高い音がかすれていた仲間も，とてもきれいな声になりました。私も息の出し方も工夫して，目線の所にはっきり見える虹がかかるくらいきれいになりました。とってもとってもよかったです。

～麻央さんのふり返しカード～



歌声を確かめながら歌う麻央さん



発表する麻央さんグループ

「歌のにじ」の歌詞の世界に浸って，感受した情感を歌い上げる新たな認識を形成し，自分の表したい表現を創りあげた麻央さんである。

### Ⅲ 成果と課題

- 子どもが，聴きわける耳を働かせ，自分に問う音楽語らいをしながら，主体的に追求する姿がみえてきた。聴きわける耳を働かせ，音楽語らいをしながら，表したい表現にむけて追求することで，それぞれの質が高まる。そのことにより，子どもが自ら感受した情感を深め，表現技能を高めていく，といえる。
- 仲間と相互評価する音楽語らいの内実が，曖昧である。発達段階，児童の実態，単元のねらいに応じて，仲間との価値ある音楽語らいの内実を明らかにし，主体的な表現追求に生かしたい。

#### <主な参考文献>

- 金本 正武／小原 光一 1999 「音楽科の授業をどう創るか」 明治図書
- 西澤 昭夫 2002 「音楽教育における『不易』と『流行』」 教育芸術社
- 金本 正武 2002 「新しい教育課程の展開 小学校音楽科」 東洋館出版
- 市川 伸一 2003 「学力から人間力へ」 教育出版